

編集後記

新型コロナウイルス感染症予防のために頻回な手洗いやアルコール消毒を行い、手荒れを生じて受診する患者さんが増えてきた4月下旬、NHK鹿児島の「ひるまえクルーズかごしま」に出演して予防策について話しました。ポイントは2つで、乾いたハンドタオル等で丁寧に指間や指のシワの水分も拭き取ることと、保湿剤はたっぷりした量を皮膚の表面に薄い皮膜を作る様にシワに沿ってゆっくりと塗り広げることです。放送後、多くの方から「先生、見ましたよ。早速、その日から実践しています」と言われ、概ね好評でした。

誌上ギャラリーは、この季節に相応しい相良有一先生が撮影された「かのやばら園のアジサイ」です。かのやばら園では季節の移り変わりにあわせ、バラ以外の花も楽しめるようにと5年前から約30品種1,200株の紫陽花が植栽されたそうです。青や紫、ピンクなど様々な色の花が楽しめるようなので、雨の日に傘を差して、ばら園散策も良いかもしれませんね。

今号は通巻700号 !!

700号に寄せて歴代編集委員のみなさんから投稿をいただきました。池田琢哉県医師会会長の祝辞や上ノ町 仁会長の挨拶にあるように本医報の目的は2つで、一つは医師会の状況・情報を的確に伝える媒体であることで、もう一つは自由に投稿ができる「随筆・その他」や「鹿市医郷壇」のように会員交流と親睦の場所の提供です。

特記すべき医師会の状況として、新型コロナウイルス感染拡大予防のために区・支部会、各種部会のほとんどが中止されたので、本号には区・支部だよりと各種部会だよりコーナーがありません。さらに、論説と話題で米盛公治救急・災害医療担当理事より、5月12日にFAXで届いた「鹿児島市医師会新型コロナウイルス感染症への取り組み～正しく恐れるためには～」の追補的説明を含めて投稿をいただきましたので、

是非、お読みください。

また、長友医継現編集委員長が書いておられるように「鹿市医郷壇」への投稿者が少なくて危機的状態なので、STAY HOMEで増えた余暇に薩摩郷句へチャレンジはいかがでしょうか、投稿をお待ちしています。

学術は2つ。一つ目は、医師会病院の緩和ケア科の馬見塚勝郎先生から Ⅰ型糖尿病をもつ胃癌患者さんが著明な低血糖を起したことに関して原因など検討した報告を、二つ目は、粟 博志先生から血液透析後に激しい頭痛を繰り返す症例から逆説的ICH (Intracranial hypertension) 症候群という新たな概念の提唱です。

切手が語る医学は、ペニシリンを発見して1945年にノーベル生理学・医学賞を受賞したアレクサンダー・フレミングです。有史以来、人類は病原菌との闘いに翻弄されてきました。ペストやコレラなどの感染症は多くの人命を奪い、歴史を塗り変えるような社会的な危機をもたらし、感染症の治療が確立していなかった当時、人々は病原菌に侵されることに怯え、ただ無事を神に祈ることしかできなかつたでしょう。このような状況の中、アレクサンダー・フレミングが発見したペニシリンで、細菌感染症への治療ができるようになったことは大きな医学の進歩と言えるでしょう。今回の新型コロナウイルス禍で、「医学とは感染症と人間との戦いの歴史だ」ということを再認識させられています。

鹿児島県の緊急事態宣言は解除されました。新型コロナウイルス感染症拡大の第1波は収束しつつありますが、終息の目処はたちません。高校の同期たちとのオンライン飲み会に参加した経験から、中止されている支部会を新しい生活様式に即して宅配される高級弁当を食べながらオンラインでの開催も有りかなと思うのですが、みなさん、いかがでしょうか。

(編集委員 島田 辰彦)